

平成29年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」

のサルによる被害防止管理委員会会議録

1 会議の名	平成29年度 第1回 天然記念物「高宕山のサル生息地」 のサルによる被害防止管理委員会会議
2 開催日時	平成29年 7月19日 (水) 14時00分～15時00分
3 開催場所	富津市役所 5階 504会議室
4 審議等事項	(1) 平成28年度被害防止管理事業報告及び決算について (2) その他
5 出席者名	(委員) 小泉 義行、石井 清孝、岡根 茂、山口 喜弘、 大野 一郎、茂木 雅宏、小林 琢也、嶋野 利郎、 森 孝夫、朝川 康彦、池田 文隆、高木 淳子 (千葉県) 水野 大樹、西川 歩美 事務局 (調査団)直井 洋司、白鳥 大祐 (富津市)能城 雅幸、岩名 生麿、桐村 修司、知念 孝男 (君津市)矢野 淳一、當眞 紀子、朝倉 唯
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人 (定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
(富津市)岩名 生涯学習課長	<p>定刻となりましたので、平成29年度 第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、出席者12名、です。過半数の委員の出席を得ており、本委員会設置要綱第7条第2項により成立しております。</p> <p>会議に先立ちまして、委員長であります、小泉富津市副市長から挨拶を申し上げます</p>
小泉 委員長	<p>委員の皆様におかれましては、公私共に御多忙の中、御臨席を賜りありがとうございます。</p> <p>また、日頃当地域の文化財行政に御理解と御協力を頂きまして深く感謝申し上げます</p> <p>昭和62年に設置されました当委員会でございますが、サルによる作物への被害はいまだ多く、その役割は益々重要なものとなっております。</p> <p>本日はお忙しい中、千葉県教育庁教育振興部文化財課から水野様、千葉県環境生活部自然保護課から西川様にお越しいただいております。</p> <p>今後の方針等についてお話をさせていただけると思います。</p> <p>さて、本日の議題は</p> <p>(1) 平成28年度被害防止管理事業報告及び決算についての1件でございます。</p> <p>また、その他といたしまして、本被害防止事業と関連する事業も含め、事務局及び千葉県の関係課職員2名の方からそれぞれの立場でのお話を伺う次第でございます。</p> <p>様々な立場からの御意見、御提案等活発な審議をお願い申し上げます、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
(富津市)岩名 生涯学習課長	<p>議題に入ります前に、今年度第1回目の会議で、委員も変わりましたことから、委員の皆様、事務局等の自己紹介の時間をとりたいと思います。</p> <p>恐れ入りますが、お手元の席次表で委員長から右回りに御起立の上、自己紹介をお願いします。</p> <p>(委員・事務局自己紹介)</p>
(富津市)岩名 生涯学習課長	<p>続きまして、お手元に配布した資料の確認を行います。</p>

<p>(富津市) 桐村 副主幹</p>	<p>お手元の資料をご確認ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 席次表 2 会議次第 3 当委員会設置要綱 4 当委員会等名簿 5 平成28年度被害防止管理事業報告書 6 平成28年度被害防止管理事業決算書 <p>以上の6点です。</p> <p>本日の会議資料は以上ですが、不足はございませんでしょうか。 ないようでしたら、資料の確認を終わります。</p>
<p>(富津市) 岩名 生涯学習課長</p>	<p>会議の公開についてですが、この会議は、富津市及び君津市情報公開条例により一般に公開されます。公開の方法としまして、会議の終了後、会議録を作成し、両市のホームページにて公開します。</p> <p>このため、後ほど会議録署名人2名を決めて頂きたいと思います。 また、会議録作成のために録音させていただきますので、御了承のほどお願いいたします。</p> <p>では、本委員会設置要綱第7条第3項の規定により、議長を小泉委員長にお願いします。</p>
<p>小 泉 議 長</p>	<p>規定によりまして、議長を務めさせていただきます。 それでは、議題に入る前に署名委員を2名決めたいと思います。こちらからの指名でよろしいでしょうか。</p>
<p>委 員 一 同</p>	<p>(異議なしの声)</p>
<p>小 泉 議 長</p>	<p>嶋野委員と茂木委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>委 員 一 同</p>	<p>(異議なしの声)</p>
<p>小 泉 議 長</p>	<p>では、議題に入ります。議題(1)平成28年度被害防止管理事業報告及び決算について、事務局の説明を求めます。</p>
<p>(君津市) 當眞 副主幹</p>	<p>平成28年度の事業報告について説明いたします。</p> <p>資料：『平成28年度 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業報告書』に沿って説明</p> <p>お手元の資料をご覧ください。 7ページ、1 被害防止についてです。</p>

(1) 電気柵による被害防止

当事業で設置した既設電気柵の維持管理、改修、移設を実施しております。

①維持管理については、月1回以上の点検や補修を行いました。9ページの表1.1が結果となっています。宇藤原地区の周回電気柵は、年3回程度の草刈を実施しました。

②改修は、富津市側は7ページ図1.1をご覧ください。高溝地区T2で42m、T10+T15で97mを改修しました。10ページは改修後の写真です。君津市側は7ページの図1.2にあります平田地区のK11で80mをしました。11ページが改修後の写真です。

③撤去及び移設は、7ページ図1.1の中央部にあります、富津市宇藤原地区U26で実施いたしました。地元住民の方より、旧U26内側の耕作地を耕作する予定がないので、近隣の耕作地、図内の新U26の場所ですが、そちらに電気柵を作って欲しいという希望がありました。旧U26は平成22年度に改修したもので、材料の痛みが少なかったことから、撤去した材料を再利用し、100m分の移設を行いました。

13ページ (2) 被害多発期の追い払いについて

8月8日から8月31日までの24日間、実施員数は延べ27人日です。

(3) 被害実態調査

3月に、合計55戸を対象に聞き取り調査を行いました。調査地点は、14ページに記してありますが、宇藤原地区12戸、宇藤原地区以外の富津側の地区24戸、君津側地区19戸です。調査結果は15から17ページに示しています。全体的な傾向を昨年度と比較すると、15ページの図1.5にあります。宇藤原地区、富津側地区では被害率・被害指数とも増加、君津側地区では被害率は減少、被害指数は横ばいという状況でした。宇藤原地区では昨年度あたりから、オスグループ(ハナレザル)の小集団等、これまでとは違う群れの出没による被害が増加しております。

続きまして18ページ、2生態調査と個体数管理です。

(1) 電波発信機(テレメーター)装着のための捕獲

テレメーターを装着するために、箱ワナを10台、7か所に設置しました。設置箇所は19ページ図2.1に記しました。

今年度は計6頭捕獲し、うち2頭のメスにテレメーターを装着しました。18ページの表2.1は捕獲個体の一覧です。装着個体は君津市怒田沢で捕獲した個体番号ヌタザワ01のメス、富津市豊岡捕獲の個体番号シクミ02のメスの2頭です。シクミ03とした子猿は、捕獲時より弱っており放獣前に死亡しました。捕獲個体はすべて計測、採血、写真撮影、外見観察を行っております。

次に20ページ(2)生態調査です。

今年度の追跡対象群は、表2.2にありますT-II群、石見堂群、フジコ群(仮称)、小倉A群、怒田沢A群、旅名A群、尾崎群の7群、テレメーター装着個体は合計11頭となります。平成27年事業でテレメーターを装着した君津市怒田沢のヌタエは、今年度4月よりテレメーターが不動であり、テレメーターの脱落か個体の死亡により追跡中断となりました。また、フジコ群はテレメーターの不具合、電波発信が極めて弱い状況で、追跡が困難な状況でした。

各群れの結果について、ご説明いたします。

23ページ以降に遊動域を示した図がございますので、本文とあわせてご覧ください。

i) T-II群

遊動域は富津市高溝、宇藤原、大川崎、大田和、関地付近で、平成26、27年度と大きな変化はありませんでした。個体数は、1月25日の観察時では計10頭をカウントできました。平成26年度の環境省事業での調査では15～17頭と推測されており、これまでの調査から20頭程度の小さな群れであると推測されます。

ii) 石見堂群

遊動域は富津市宇藤原、高溝、田倉、恩田地区、エンゼルカントリークラブ付近です。昨年度、調査開始以来始めて、西側に遊動域が拡大しましたが、今年度も同様の傾向が見られました。また、南側の指定地周辺での遊動が減り、北側での遊動が増えている傾向もあります。個体数は、6月3日の観察時で最大41頭を確認しました。平成26年度には88頭をカウントしており、カウントもれの個体がいると考えられます。

iii) フジコ群(仮称)

調査を継続しているが、テレメーターからの電波発信がない、または電波が弱い状況で、機械の不具合が考えられています。そのため、確実に把握できた遊動地点を、25ページ図2.4に点で記しております。宇藤原地区での群れの遊動頻度が近年増加しているようで、宇藤原地区で被害を出している群れの一つと思われます。カウントの機会は得られていません。

iv) 小倉A群

富津市豊岡(志組)で捕獲したクミコを含む群れです。9月から調査を開始しました。遊動域は富津市豊岡地区です。カウントの機会は得られていません。

v) 怒田沢A群

君津市怒田沢で捕獲したヌタを含む群れです。6月から調査を開始しました。遊動域は君津市怒田沢、辻森、宿原、旅名、豊英地区です。怒田沢A群の行動域は、次に説明する旅名A群行動域のすべてを含む大き

な行動域でした。カウントの機会は得られなかったが、観察によると旅名A群より大きな群れと考えられます。

vi) 旅名A群

遊動域は君津市旅名、怒田沢、豊英地区付近です。28ページ図2.7をみると、平成26・27年度と比べて狭い範囲で確認されています。6月29日の調査で20頭を確認しました。平成27年度の環境省事業での捕獲や本事業の調査で、34頭程度の群れと推測されています。

vii) 尾崎群

遊動域は君津市豊英地区、鴨川市横尾地区付近です。9月30日の観察時で24頭を目視で確認しました。

各群れの行動域は、31ページ、図2.9にまとめて示しています。

32ページ(3) 個体数管理については、

富津市農林水産課、君津市農政課より有害鳥獣駆除の資料を提供していただき、取りまとめました。32ページから35ページに一覧、地図を示しています。駆除された個体数は、指定地域0、要現状変更範囲0、要協議範囲富津側のみ4頭、その他周辺地域71頭(君津市側53頭、富津市側18頭)、これに富津側の捕獲地域不明1頭を含め、合計76頭の捕獲でした。平成27年度の捕獲頭数は両市合計58頭でしたので、18頭の増加です。内訳では、君津市10頭、富津8頭の増加となっております。

次に36ページ、3 天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査です。

(1) 環境改変については、君津市側の高宕山県有林の広葉樹木造成試験地での天然更新と富津市側の国有林に植栽したヤマザクラの成長量の調査を実施しました。調査地点は37ページ図3.1、天然更新試験地の調査区域は38ページ図3.2に示しています。調査区は10区に分かれており、区ごとに成長量を調査しました。成長状況については、39から41ページに示しています。

41ページ(2) 生息環境調査は、富津市宇藤原地区の峰上ステーションで気温と降水量を測定しました。気温は、平成27年度と比べて月毎の動きは大きな変化はありませんが、最高気温と最低気温の差が、特に10月と1月で大きくなっています。雨量については、27年度比では、7月の雨の少なさと8月の多さが際立っていました。8月の雨量もお盆明けから一週間ぐらいにまとまっている状況でした。42から45ページは記録表になります。

以上、報告いたします。

(富津市) 桐村

それでは引き続き平成28年度事業の決算について御説明いたしま

副主幹

す。

資料：平成28年度 天然記念物 「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業決算書に沿って説明)

歳入	(収入額)	4,473,000円
内訳	富津市	2,460,000円
	君津市	2,013,000円
歳出	(支出済額)	4,473,000円
内訳	報償費	36,000円
	賃金	2,873,000円
	旅費	175,930円
	需用費	1,374,267円
	役務費	13,803円

決算の説明については以上となります。

(調査団)白鳥

群れの行動域について補足説明させていただきます。

○資料 『平成28年度 天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業途中経過報告書』について補足説明

33ページの図2.10の全体図をご覧ください。

まず、T-II群について、さきほどこれまでと比べて、大きな変化はないという説明でしたが、わずかな変化として、行動域が東側の宇藤原方向へ進出している様子がみられました。

次に、石見堂群ですが、宇藤原地区は行動域に含まれていますが、遊動頻度は少なくなっています。むしろ、田倉・恩田地区での遊動が多い状況です。その代わり、フジコ群(仮称)が宇藤原での遊動を増やしています。フジコ群(仮称)はカウントの結果がありませんでしたが、調査時には50頭以上の比較的大きな群れという印象があります。実は、テレメーター装着以前に、宇藤原地区で発信機のない群れを80頭前後カウントしました。その時の群れがフジコ群(仮称)ではないかと考えております。

小倉A群はカウントができませんでしたが、50頭以上はいる印象です。

次に、怒田沢群、旅名A群の関係についてですが、行動域をみると、怒田沢群の行動域のなかに、旅名A群の行動域がすっぽりと収まっており、このような行動域を示すのは珍しい状況です。

最後に、要現状変更範囲である宇藤原地区には、T-II群、石見堂群、フジコ群(仮称)が重なって遊動しており、頻度でいえばフジコ群(仮称)が最多となっています。ですが、フジコ群(仮称)は現状発信機が不具合で追跡が困難な状態です。今後も捕獲を進め、新しいテレメーター装着を進め、追跡できる体制を整えていきたいと思っております。

小 泉 議 長	<p>ありがとうございました。 説明が終わりましたので質疑応答に移ります。 何か御質問等ございませんか。</p>
池 田 委 員	<p>捕獲を引き続き行うというお話でしたが、19ページの配置図をみると手薄ではないかと思いますが、そのあたりはどう考えていますか。 もう一つ、フジコ群（仮称）の説明で50頭以上の群れではないかというお話でしたが、そもそも天然記念物の発端であるT-I群は、現在テレメーター装着個体もいないが、どうなっているのか、お伺いします。</p>
(調査団)白鳥	<p>池田委員のおっしゃるとおり、もう少し檻を増やしたいとは思いますが。</p>
(調査団)直井	<p>檻を増やす方がよいが、現在の予算内では新規で購入するのは難しい。今年度からは、リース等も利用できないか検討していきたいと考えています。 T-I群については、テレメーター装着個体がおらず、群れの詳細は不明です。ですが、発信機はないが、規模の大きな群れが、31ページの石見堂群、T-II群の行動域が重なる東大和田で見られることがあり、少し人慣れしている様子から、T-I群の可能性が高いのではないかと考えています。過去の行動域から、T-I群は石見堂群に押されて西側へ移動していくかと思っていましたが、むしろ南側のT-II群の行動域内へ動いている状況がみられました。これまで、石見堂群の行動域内で捕獲に適した場所が少なかったが、T-II群の行動域内に捕獲檻を設置したら、T-I群の個体が捕獲できる可能性があります。</p>
小 泉 議 長	<p>池田委員、よろしいですか。</p>
池 田 委 員	<p>はい、結構です。</p>
小 泉 議 長	<p>他にございますか。</p>
岡 根 委 員	<p>質問いいでしょうか。31ページに群れの行動域をみると、この会議の被害防止と話がずれるかもしれませんが、基本的に国の指定になっている生息地内に、サルはいるのでしょうか。</p>
(調査団)直井	<p>おっしゃるとおりでございます。テレメーターの装着は、被害の多い場所を中心に行っております。一方指定地内は地形的にアクセスが悪く、捕獲檻を運んで設置する、また、定期的な点検巡回をするにも人的労働力の問題等があり、捕獲が進んでいない状況です。 これまでの成果でみると、石見堂群が現在は北側で遊動していますが、元々は、富津市側の要現状変更範囲から南へかけて動いていまし</p>

	<p>た。高宕山全体の傾向では、群れの行動域が北側へ変化していますが、国の指定地内にも、いくつかの群れはいるはずですが、指定地内を歩いてみても、サルの群れに遭遇することは少ないです。その要因としては、山林内で食料となるものが少なく、耕作地周辺の方が食物となるものが取りやすいですとか、まとまっているといった状況が考えられます。季節的なことでいえば、秋、田んぼの稲刈りが終わった後ですね、アケビや山のドングリ等が豊富になれば、サルも指定地内へ移動していく傾向があると思います。ですが、指定地内の状況把握も必要であると考えます。</p>
<p>岡 根 委 員 (調査団)直井</p>	<p>もう一つ、いいでしょうか。近年報道されている、アカゲザルとの交雑問題ですが、交雑の状況はどうなっていますか。</p>
	<p>平成26・27年度の環境省事業において、富津側のT-II群、君津側の旅名A群の調査を実施し、その時点で、T-II群は交雑なし、旅名A群では何頭か交雑個体があり駆除しております。また、報道でご存知とは思いますが、高宕山自然動物園内のサルで交雑個体がまとまった数で確認されましたので駆除いたしました。これは、動物園内のサルがもともと交雑個体だったのではなく、動物園内のサルが外に出て交雑個体と接触し、何世代か時間をかけて交雑が進んだと考えております。ただ、動物園内の交雑個体が高宕山周辺へ出て行って交雑が拡大することもありますので、今後も天然記念物として把握していかなければなりません。報告書にも記載いたしましたが、高宕山の被害防止事業のなかでは、遺伝子分析までの費用は計上されておられません。捕獲したサルについては、計測と血液採取を行い、血液サンプルを保管しておりますが、それをどこが分析するのかという課題がございます。千葉県では広域的に各市町村のものを分析していると聞いておりますので、高宕山の分もなんとか対応していただけたらと思います。ぜひ関係機関での連携をお願いいたします。</p>
<p>小 泉 議 長</p>	<p>他にございますか。</p>
<p>茂 木 委 員 (調査団)白鳥</p>	<p>13ページの上、被害多発期の追い払いについて、対象の群れは石見堂群とT-II群とありますが、具体的にどの地域で実施したのでしょうか。</p>
	<p>富津側の要現況変更範囲である宇藤原地区、周辺で被害の多い田倉・高溝地区で実施しております。追い払いは、国指定の発端となったT-I群による被害防止のために始まったもので、被害が多かった地区を対象としております。現在、T-I群にテレメーター装着個体がおらず、行動域も指定地周辺から離れていますが、その代わりに石見堂群、T-II群等が出没し作物被害をだしております。</p>
<p>茂 木 委 員</p>	<p>T-II群についてですが、二週間程前に富津の大田和地区の住民の方から、テレメーターを装着したサルによる被害ということで、当課に連</p>

	<p>絡がありました。こちらではテレメーターを装着したサルへの対応ができませんので、教育部に対応をお願いしたところです。いろいろな問題もあるとは思いますが、その後も数回、同じ方からの苦情が当課に入っております。追い払いは要現状変更範囲で主に実施していることですが、大田和地区での対応もお願いします。</p>
(富津市) 知念 主事	<p>大田和地区のテレメーター装着個体による被害については、その他のところで事務局より報告いたします。</p>
小 泉 議 長	<p>他に御質疑等がございますか。他に御質疑もないようですので、議題（１）平成２８年度被害防止管理事業報告及び決算について、御承認頂けますか。</p>
委 員 一 同	<p>（異議なし）</p>
小 泉 議 長	<p>どうもありがとうございます。本件は承認されました。 続きまして、次第５その他（１）事務局及び関係機関からの報告でございますが、はじめに、事務局より報告をお願いします。</p>
(富津市) 知念 主事	<p>事務局からの報告について、ご説明いたします。</p> <p>報告書２０ページにテレメーター装着個体の一覧がございますが、T-Ⅱ群にハチという個体がございます。この個体が、先ほど茂木委員からお話のあった富津市大田和地区で被害を出しているサルです。テレメーターを装着したサルが群れを離れ、大田和地区を中心に目撃されているという情報が、５月下旬から伝えられるようになりました。個体の特徴等から、T-Ⅱ群のハチであるということで、６月上旬に捕獲いたしました。元の群れに戻ることができれば、群れの動きを把握し被害対策の面でも役立つと考え、耐用年数が残り僅かであったテレメーターを新規のものと交換し、放獣いたしました。ところが、群れには戻らず、再びハナレザルとなり、大田和地区からは農作物被害のみでなく、人に牙を見せて威嚇するという声も７月に入ってから寄せられるようになりました。再度捕獲を試みたところ、ハチが捕獲檻に入ったところを確認したばかりという状況でございます。捕獲したハチの処遇については、今後、関係機関と協議を進め決めていきたいと考えております。</p>
小 泉 議 長	<p>続きまして、本日、千葉県教育庁教育振興部文化財課より水野さんが見えておりますので、お話を伺いたく思います。 千葉県文化財課の水野様、お話をお願いします。</p>
県文化財課 水 野 文化財主事	<p>富津市からもお話のあった、サルの捕獲について、私からはお話しさせていただきます。千葉県文化財課では、君津・富津両市、文化庁と連携し、サルの捕獲等の事務手続きについて協議し、進めているところでございます。高宕山の場合、指定地、要現状変更範囲、協議地域と三つの区分けがあります。文化財保護法に基づく現状変更が必要な</p>

	<p>範囲が指定地であり、この指定地内でのサルの捕獲、あるいは生息地の改変、例えば樹木の伐採等ですが、を行う場合は、原則文化庁の許可が必要になります。ただ、ここ数年文化財保護法施行令の改正がございまして、文化庁の許可を待っていると時間がかかりすぎるということから、市の教育委員会で許可する案件が若干変更になりました。先ほど事務局の知念さんから報告がございましたが、人への被害がある場合は市教育委員会で捕獲の許可ができるようになりました。農作物被害の場合は文化庁での許可となっています。では、指定地以外の地域ではどうなのかといいますと、様々な群れが遊動しているなかで、指定地域内も遊動域とする可能性がある群れについては、原則文化財保護法に基づいた現状変更手続きを行うことが望ましいと考えます。まったく指定地とは関係のないことが明らかな群れについては、許可は必要ありません。事前に県文化財課に相談いただければ、許可等の方法をご提案あるいは相談させていただければと思います。協議地域については、毎年両市よりサルの捕獲について、年度初めに、予想される頭数の協議をいただいておりますので、引き続きお願いいたします。以上です。</p>
小 泉 議 長	<p>ありがとうございました。 では、千葉県自然保護課の西川様、お願いいたします。</p>
県自然保護課 西川副主査	<p>自然保護課では、今年度から県のニホンザルに関する特定計画が“第4次計画“という形になっていることとお話させていただきます。内容については、昨年度の会議で担当から触れさせていただいたところですが、県としては、被害対策、サルについては群れ管理を基本に考えております。今後は、よりしっかりと群れ管理を行っていきけるよう対策を進めていきたいと考えております。まず、群れ管理をしていくために、県内でのサルの群れの分布を把握するのですが、千葉県の場合、まだまだ把握が不十分ですので、今年度、来年度の二カ年かけて県内のサルの群れの分布を一斉に調査する予定です。どのような調査かという、他県や環境省のモデル事業でもすでに行っていますが、サルの出没カレンダー調査といひまして、地域住民の方々にご協力いただき、出没の記録をつけていただくことで群れの行動域の推定、加害レベルの判断ができるものです。県内でのサルの分布が広範囲ですので、二カ年に分けて実施予定でございまして、詳細については8月に担当者会議を開催する運びとなっております。基本的には農政部門のご担当に出席いただきまして、詳細はその場でご説明する予定です。今年度、来年度と調査に関しまして市町村さんにご協力をいただく形となりますが、県内の群れの分布状況を把握するというところで、県としてもしっかりと進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>
小 泉 議 長	<p>ありがとうございました。 ただいまの事務局の報告、お2人の御説明につきまして御質問等はございますか。</p>

<p>(調査団)直井</p>	<p>先ほど事務局から報告のありました、テレメーターを装着したハチについてですが、正直申し上げまして、メスが自分のコドモだけを連れて単独行動するというのは、通常のニホンザルの行動としては珍しい、というより異常といってもいいかもしれません。どうしてそうなったのか考えてみたのですが、例えば、人間に餌付けされているとか、動物園などで餌付けされ、人にも慣れてきているようなサルが、外に出て狭い範囲で生活しながら人間の行動域内を荒らすというのにはありますが、T-II群のハチの場合、そうではありません。何らかの理由でハチに精神的に問題があるとか、群れにいられない理由があるということも考えられるかもしれません。ただ、メスの単独行動は全国的にみれば数例はありますが、房総半島では私が知る限り、白浜のアカゲザルでテレメーターを装着した個体が1頭で行動していましたが、テレメーターの電池が切れて追跡不能となり、いまだ捕獲されておりません。あと、形はちがいますが、T-I群内で成熟した個体の母と娘を中心にした12頭がサブグループのようにして1週間程、本体の群れと別行動したことがありましたが、こういう行動はよく見られるものです。ですが、その後群れに戻りましたので、ハチの場合とはちがいます。ハチについては、一度放獣しましたが群れに戻りませんでしたので、野生に戻すことは難しいと思います。その処置については、事務局のお話のとおり、関係機関でよく検討して決めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>小泉議長</p>	<p>ありがとうございました。 他に御質問等はございますか。</p> <p>ないようですので、議事終了といたしまして、議長の職を解かせていただきます。 御協力ありがとうございました。</p>
<p>(富津市)岩名 生涯学習課長</p>	<p>それでは、以上をもちまして、平成29年度第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議を閉会いたします。 長時間にわたる審議ありがとうございました。</p>